

『日露戦争百年兵士からの礼状』展

筑西市誕生記念応援団事業 下館・時の会第10回企画展

会期 11月12日(土)～27日(日)

時間 午前10時～午後6時(最終日は4時まで)

会場 時の蔵(田町 板谷波山記念館前)

明治37年～38年(1904～1905)、日本とロシアが朝鮮・満州(現在の中国東北部)の支配権をめぐって争った日露戦争から、今年で100年。この戦争には、私たちの住む筑西からも、多くの兵士が従軍しています。当時、真壁郡下館町にあった『下館五十集乾物商組合』は、真壁郡出身の従軍兵士たちの慰問のため、地元の新聞を送り続けました。そして、ふるさとからの贈り物に勇気づけられた現地の兵士たちは、組合への礼状をしたためます。こうして届いた数々の礼状を『貼り混ぜ屏風』として仕立てたもの4本(うち1本はシベリア出兵時のもの)が、近年、相次いで発見されました。

市民グループ『下館・時の会』(会長 木努さん・大町)では、100年前のふるさとの姿を再確認しようと、これらの屏風を中心に、下館・関城・明野・協和の各地域から日露戦争に関連する品々を集めた展覧会を開催しています。



▲騎兵蹄鉄工長として参加した大木猪一郎による陣中日誌。明治37年2月に鍋山の自宅を出る日から、2年間にわたり綴られています。



▲戦利品として持ち帰られたロシア軍の砲弾の一部(下館丙)



▲成田の二所神社に、地元の人たち44人から奉納された日露戦争戦勝記念の額。



▲神社に保存されていた出征兵士の名簿（樋口）



時の蔵に展示された屏風

▶ 出征軍士の家を示す木札（下館内）



▲馬上射撃の標的（関本中）
▶ 100年間保存されてきた騎兵隊の軍服（関本中）

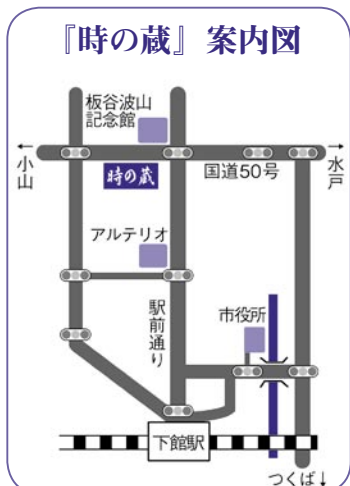


▲屏風に残る稲傳十郎からの礼状

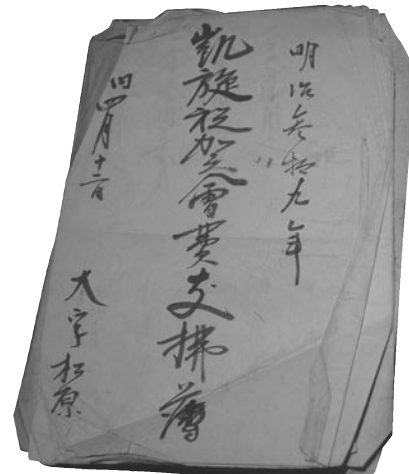
▶ 明治40年1月に下館で発行された、日露戦役記念写真帳。写真帳の14ページ下段左端に掲載された稲傳十郎（小栗）は明治37年12月12日に戦死していますが、彼が戦地から送った礼状が屏風の中に残されています。



■ 問い合わせ
下館・時の会 TEL 090(3061)3954



▲旅順陥落記念の袱紗（関本下）



▲凱旋祝賀会費支払簿（松原）。戦勝祝の花火大会が行われた様子がうかがわれます。